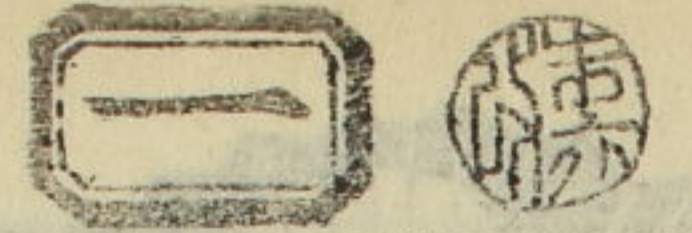






三十二篇上





或時故小團治丈一様出幕小狂狂言の祝玉也
事あり開彼が為をえ河竹氏が筆致
出るといくと看官ハ小團治丈が意井より出るものありと
あつたなりやあや巴小師翁が妙案此田舎源氏に老氏と
以名ハ三歳兒もあつたが柳やうらも種彦も佐名を
あつたぬもいと多しとあつたなりと富女の出る獄ハ
唯の關の扉此佐者らおと我共思ぬ 出雲が佳也
九太夫の椽の下あつたなりとあつた人世憂らいつたあれ
と佐老絶つたぬものありとあつたなりと速懸と掲り
嘆トそ水毎月此行佐もに秋のそり

柳やうら種彦





北小路通氏

廣沼信濃



足利義滿

字田七

かのり
 こころり
 むらさき
 甘き
 小の
 女
 う
 ひ
 ま
 ろ
 ひ
 市
 女
 小

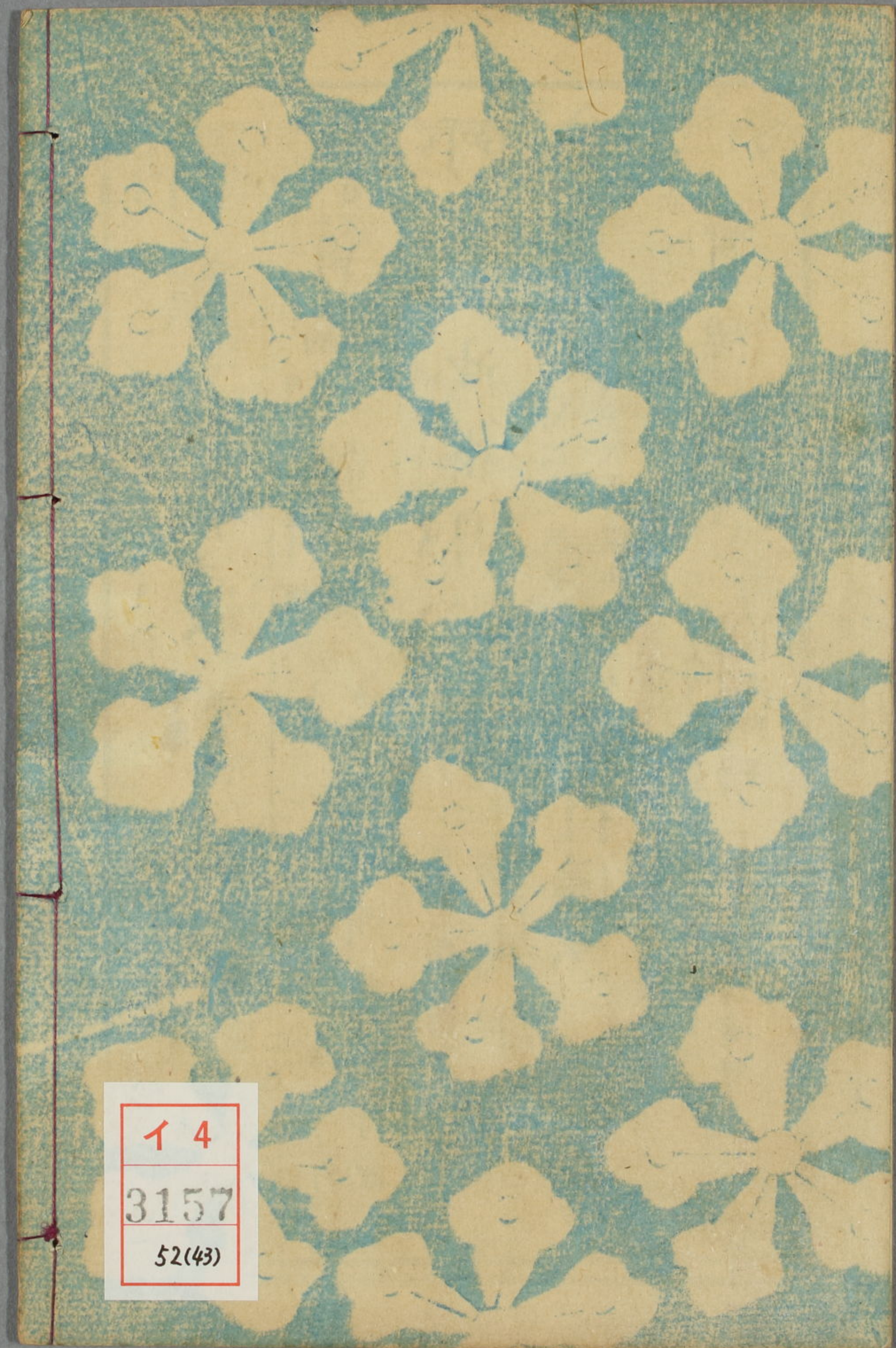


川
 小
 女
 市
 女
 小

かのり
 こころり
 むらさき
 甘き
 小の
 女
 う
 ひ
 ま
 ろ
 ひ
 市
 女
 小

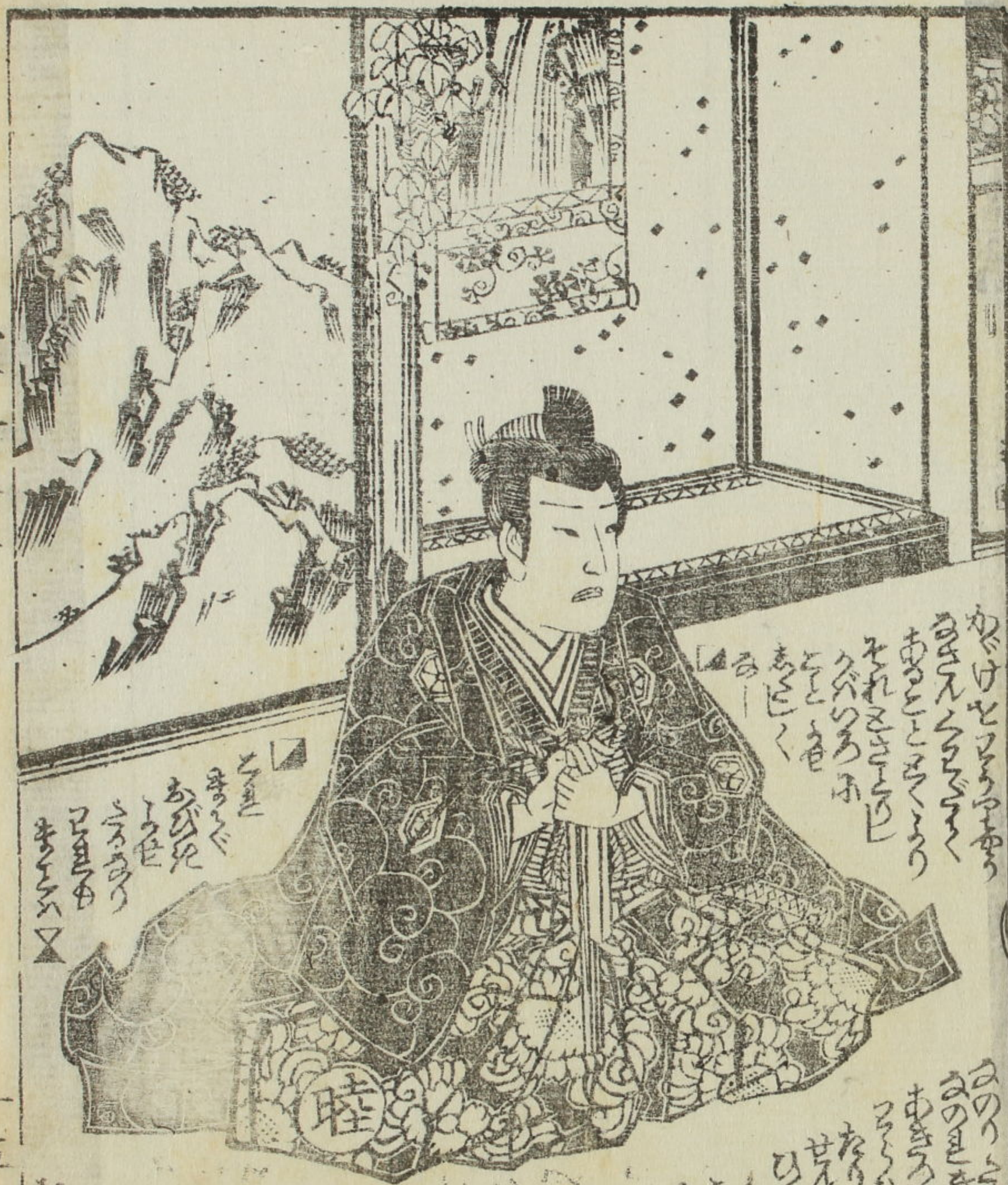


川
 小
 女
 市
 女
 小



イ 4
3157
52(43)





睦
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり

睦の
 名は
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり

睦の
 名は
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり



睦の
 名は
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり

睦の
 名は
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり

睦の
 名は
 母の
 名に
 似て
 睦と
 名づ
 けし
 けり

あつち
あつち
あつち

あつち
あつち
あつち

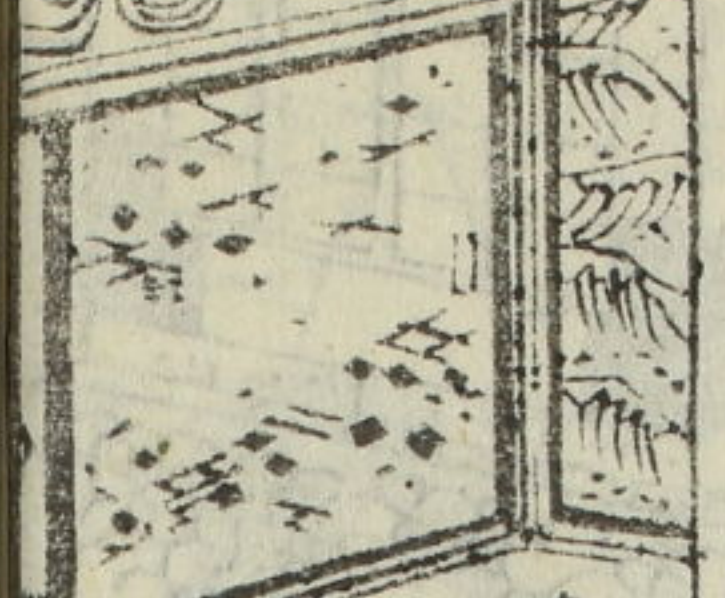


あつち
あつち
あつち



あつち
あつち
あつち

あつち
あつち
あつち

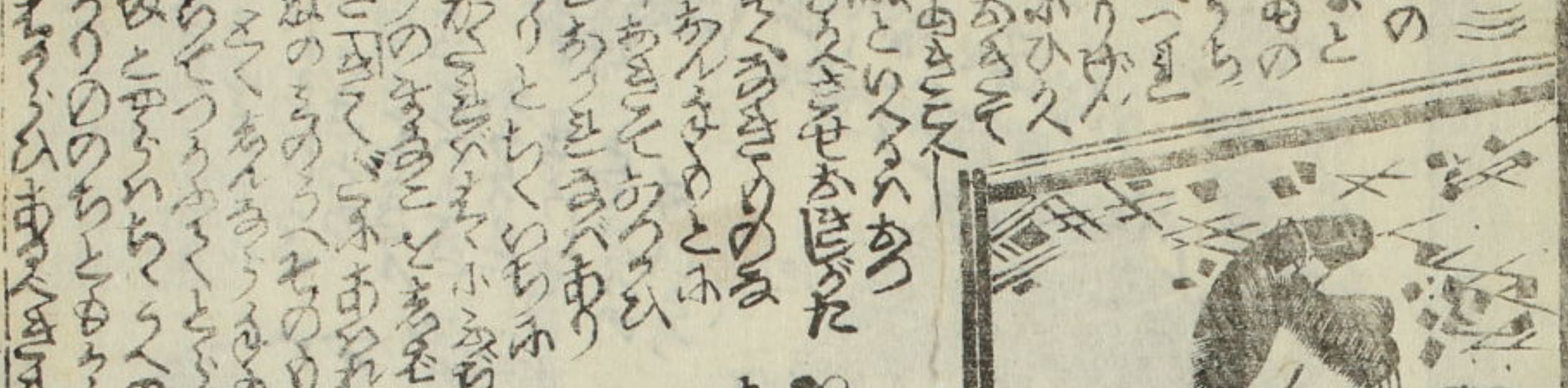


あつち
あつち
あつち



あつち
あつち
あつち

あつち
あつち
あつち



あつち
あつち
あつち



あつち
あつち
あつち





イ 4
3157
52(44)